

セタシジミ資源概況調査

井戸本 純一・西森 克浩

1. 研究目的

漁獲量が減少しているセタシジミ資源の現状とその動向を把握し、適正な資源管理や効果的な栽培漁業推進の基礎資料とするため、毎年、産卵期にあたる禁漁期間（5～7月）中に実際の漁船漁具を用いて漁獲物調査を実施している。なお、セタシジミの漁獲制限体型は、従来の漁業調整規則による殻長 15mm から、平成 18 年 3 月に作成された「琵琶湖セタシジミ資源回復計画」に基づいて殻長 18mm に引き上げられた。

2. 研究方法

毎年、同じ漁業者に依頼して主要 7 漁場を含む琵琶湖北湖の 17 水域で貝桁網を一定時間曳網し、入網した貝類の種組成と体型選別前のセタシジミの殻長組成を調査した。また、GPS の軌跡記録から曳網面積を求め、セタシジミの単位面積あたり採集量を算出した。

セタシジミの産卵前肥満度の調査を兼ねるため、採集は湖水温が 20 に達しない 2009 年 5 月 29 日に実施した。

3. 研究結果

主要 7 漁場における 1 m²あたりのセタシジミ採集数は平均 0.51 個体/m²で、前年から 0.10 個体/m²増加した。

水域ごとにみると、採集数は磯と今西を除く 5 カ所で増加し、とくに沖島南西と松原ではともに 4 倍と増加率が大きかった。

漁獲対象である殻長 18mm 以上の採集数は、平均は前年とほぼ同じ 0.12 個体/m²であったが、磯と今西で半減したのに対して沖島東と松原で倍増し、低位の資源変動に反応して漁獲圧力が集散している状況がうかがわれた。

一方、殻長 18mm 未満の採集数は平均 0.39 個体/m²で、前年から 0.11 個体/m²増加し、漁獲サイズが遵守されていることを示すとともに、資源の回復力が向上している可能性が示唆された。

4. 研究成果

調査結果を過去の推移とともに資源回復計画推進のための漁業者検討会等で発表した。

表 1 貝桁網による主要漁場における単位面積あたりのセタシジミ採集数の推移

水域名 (主要 7 漁場)	1 m ² あたりの採集個体数				
	2005年6月調査	2006年7月調査	2007年6月調査	2008年6月調査	2009年5月調査
沖島南西	0.39 (0.14)	0.54 (0.06)	0.19 (0.03)	0.08 (0.03)	0.32 (0.05)
沖島西	0.75 (0.05)	1.24 (0.08)	0.54 (0.08)	0.43 (0.09)	0.74 (0.08)
沖島東	0.42 (0.19)	0.21 (0.07)	0.13 (0.05)	0.18 (0.08)	0.24 (0.18)
松原	0.10 (0.07)	0.21 (0.09)	0.27 (0.13)	0.08 (0.08)	0.32 (0.17)
磯	0.73 (0.09)	0.76 (0.26)	0.78 (0.13)	0.91 (0.27)	0.51 (0.12)
長浜	0.33 (0.07)	0.17 (0.03)	0.09 (0.01)	0.46 (0.10)	1.06 (0.12)
今西	0.41 (0.05)	0.45 (0.10)	0.32 (0.02)	0.72 (0.23)	0.38 (0.11)
平均	0.45 (0.09)	0.51 (0.10)	0.33 (0.06)	0.41 (0.13)	0.51 (0.12)

()内は殻長18mm以上の個体数